

(西暦) 2026 年 5 月 29 日

乳癌深吸気息止め照射における解剖学的解析および心臓線量低減の 評価(単施設観察研究)に対するご協力をお願い

本研究の意義、目的、方法

意義

当院では左乳癌に対する放射線治療の選択肢の一つとして、心臓線量低減を目的とした深吸気息止め照射を行っています。しかし、一般的には深吸気息止め照射は時間を要するうえ、特にご高齢の患者様には息止めが負担となり困難であることが問題となっています。これまで、どのような患者様に有用であるかについての詳細が明らかとなっておらず、肺や心臓が自然な状態および深吸気の状態でどのように変化するかについての詳細な文献報告が乏しい状況です。これらを明らかにすることで今後の臨床に活用できると考えます。

目的

深吸気息止め照射が心臓線量を減らすために有用となる因子を明らかにすることを目的とします。また、自由呼吸および深吸気において、肺や心臓などの胸部の解剖および各臓器への線量がどのように変化するかを詳細に調べます。

方法

2020年1月1日～2030年3月31日までに当院にて左乳癌に対して深吸気息止め照射での放射線治療を受けた患者様の臨床データを解析させていただきます。画像所見、自由呼吸および深吸気での放射線治療計画上の肺・心臓の線量や体積、照射開始日、年齢、身長、体重、BMI(体格指数)、胸郭の前後・左右径、現病歴、既往歴、化学療法・ホルモン療法歴、原発巣の病理学的情報などを解析することで、心臓線量低減と関連のある因子を探索します。

協力をお願いする内容

当院放射線科で左乳癌に対して深吸気息止め照射を受けられた患者様につき、上述の診療情報を解析させていただき、有用な臨床情報が得られた場合は学会や論文で発表させていただきます。なお、発表の場合は個人が特定できない情報を用います。

プライバシーの保護について

本研究では、取り扱う患者様の診療情報は、個人が特定できる情報を削除したデータ（匿名化データ）として本研究担当者が使用いたします。患者様の個人情報と匿名化データを結びつける情報（連結情報）は、本研究の研究責任者が研究終了まで厳重に管理いたします。

本研究は患者様に普段から行っている治療についての臨床データを解析する研究であり、患者様への利益・不利益は一切ありません。患者様から本研究への不参加をお申し出いただきました場合にはデータを使用いたしませんので、不参加をご希望の方は下記へご連絡ください。本研究に参加されない場合でも、患者様やそのご家族が不利益を受けることはありません。ただし、本研究内容が学会や論文で公表された後には、撤回することはできませんので、ご了承ください。

連絡先

国立病院機構埼玉病院 放射線科 外山 弘文（研究責任者）
電話 048-462-1101